推　奨　品　種

黄心系はくさい品種　「Ｔ－６５２」「Ｔ－６５１」「黄皇」

（園試高冷地開発センター）

１．来歴

「Ｔ－６５２」：平成７年「優黄」として発表

「Ｔ－６５１」：平成４年より現地試作開始、平成７年より本格販売

「黄皇」　　：平成５年から「Ｗ－３１０７」として試作販売。平成６年発表

２．特性の概要

１）「Ｔ－６５２」（「優黄」）

（１）早生種で、定植後50～55日で収穫可能となる。抽台性は「はるさかり」並で晩抽性である。耐暑性がやや弱いため、春まき栽培に適する。

（２）ふち腐れ症、ゴマ症などの生理障害の発生が少なく、根こぶ病にも抵抗性がある。

（３）球姿は尻張り、胴張りの良い砲弾型で、球揃いが良い。

（４）球内色の黄色程度が高い。

２）「Ｔ－６５１」

（１）早生種で、定植後50～60日で収穫可能となる。草勢が強く、耐暑性・高温結球性に優れ、夏秋どり栽培に適する。

（２）ふち腐れ症、ゴマ症などの生理障害に強く、高温期に発生の多い軟腐病に耐病性で、根こぶ病に抵抗性がある。

（３）球姿はやや長めの濃緑砲弾型で、球揃いが良い。

（４）球内色の黄色程度も比較的高いが、高温時期及び収穫遅れにより黄色程度が低下しやすい。

３）「黄皇」

（１）中早生種で、は種後55～65日で収穫可能となる。耐暑性が劣るため秋どり栽培に適する。

（２）球は尻張りの良い砲弾型で、球揃いが良い。

（３）根こぶ病に抵抗性がある。軟腐病、黒斑病等に対する耐病性は並の強さである。

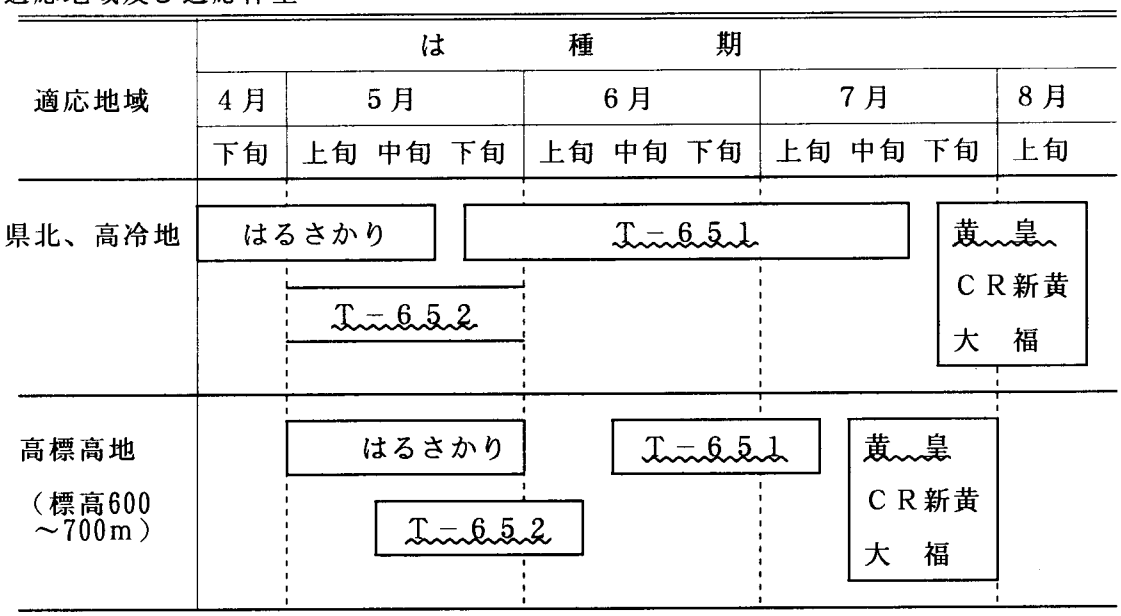
（４）葉質が柔らかで、食味も良く、球内色の黄色程度は極良である。

３．推奨品種に採用する理由

県北の土地利用型野菜の産地において、はくさいは重要な輪作品目として位置づけられ、振興が図られている。また、今後もはくさいは加工原料用として安定した需要が見込まれている。一方、近年、生食用の販売形態ではカット販売が多くなっているため、味が良く、球内の黄色が濃い品種に安定した需要があり、有利販売されている。

はくさいの年間を通しての需要に対応するためには、抽台性、耐暑性、耐病性等を考慮しながら、作型毎に適品種を組み合わせることが必要であるが、これまでの推奨品種だけでは作型別品種の組み合せ体系が万全でなかった。そこで、今回の「Ｔ－６５２」「Ｔ－６５１」「黄皇」をこれまでの体系に組み入れることにより、高品質はくさいの長期安定生産が可能となることから、推奨品種として採用する。

4．適応地域及び適応作型



5．栽培上の留意点

1）「Ｔ－６５２」は「はるさかり」より球のしまりがやや遅い分、心長の伸びが早いので、適期は種に努める。早期抽台を防ぐため温床育苗とし、夜温13℃以下にならないように保温する。また、日中は25℃以上の高温にならないように換気して、健苗を育成する。

2）若苗定植で活着を良くし、初期生育を促進する。セル育苗での老化苗の植付は避ける。

3）窒素過多による外葉の作りすぎは、ふち腐れ症やゴマ症、軟腐病の多発を招くため、適正な肥培管理とする。

4）収穫適期は、球内色が市場性の高い鮮明な黄色となる９割結球が最適である。「Ｔ－６５１」は特に過熟になると急速に黄色程度が低下するため注意が必要である。

5）三品種ともに根こぶ病に抵抗性を有するが、根こぶ病には多くのレースがあるため発病する場合もある。発生が懸念される圃場では基本的な防除対策を徹底する。夜温が下がる初夏、初秋どり栽培では、結球期にべと病が発生しやすいので予防散布を実施する。

6．試験成績の概要

省略